

国土交通省における総合評価方式の実施状況の 分析について

国土交通省国土技術政策総合研究所 堤 達也^{*1}

同上 溝口宏樹^{*1}

By Tatsuya TSUTSUMI, Hiroki MIZOGUCHI

国土交通省では「公共工事の品質確保の促進に関する法律」の成立を踏まえ、競争参加者に技術提案を求め、これらと価格を総合的に考慮して落札者を決定する総合評価方式のより一層の活用促進に努めており、平成18年度以降、簡易型を中心に大幅に適用件数が増加している。

実施状況を分析した結果、加算点を拡大しているものの依然として最低価格者が落札する割合が大きく価格の影響が大きいこと、簡易型においては簡易な施工計画や企業及び配置予定技術者の過去の工事成績等が技術力評価に有効であること、標準型においては工事特性を踏まえた本質的な課題設定や評価のあり方について引き続き検討が必要であること等が明らかとなった。

【キーワード】品確法、入札制度、総合評価方式

1. はじめに

国土交通省においては、競争参加者に技術提案を求め、これらと価格を総合的に考慮して落札者を決定する総合評価方式を平成11年度より試行してきたが、平成17年4月に施行された「公共工事の品質確保の促進に関する法律」を踏まえ、総合評価方式のより一層の活用促進に努めている。

平成17年9月に策定された「公共工事における総合評価方式活用ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）において、規模の小さな工事に適用できる簡易型が新たに導入され、総合評価方式が簡易型、標準型、高度技術提案型の3タイプに整理されたことにより、平成17年度下半期以降、総合評価方式の適用件数が大幅に増加した。ここでは、平成18年度上半期のデータを中心に国土交通省における総合評価方式の実施状況を報告する。

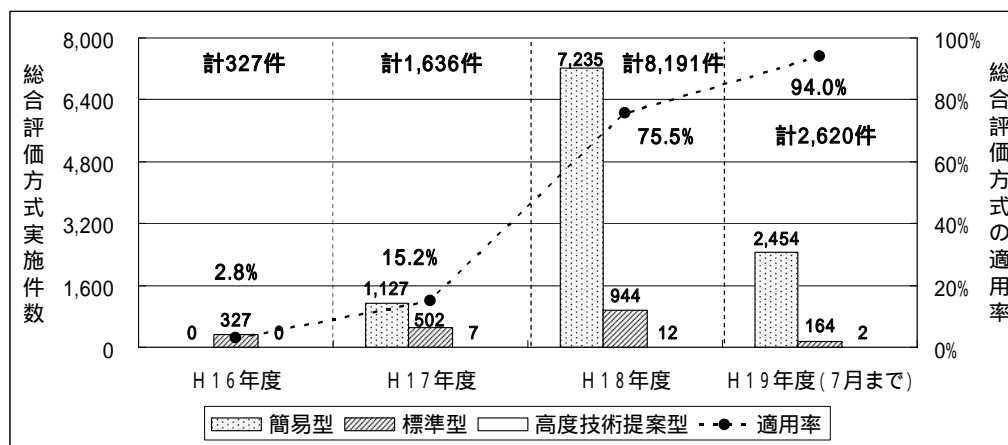


図 - 1 総合評価方式の実施件数（18・19年度は速報値）

2. 総合評価方式の実施状況

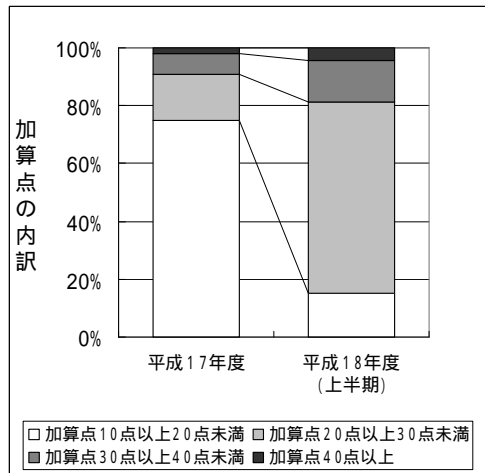
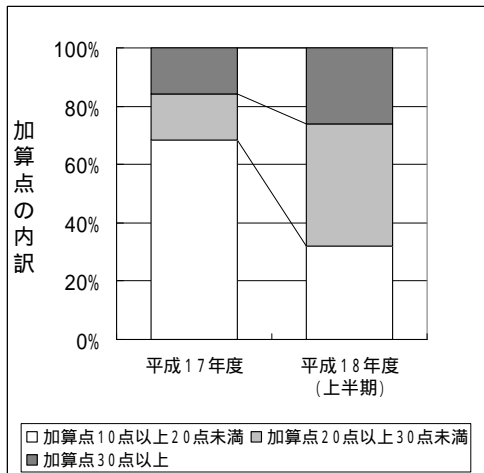
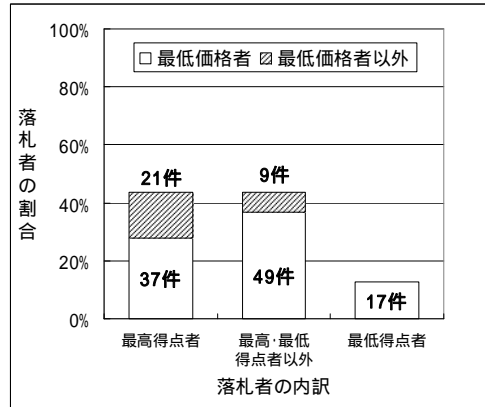
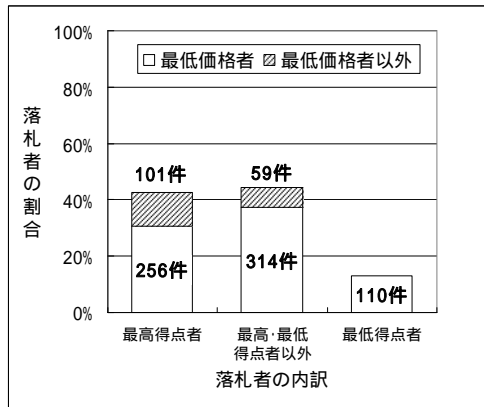
8 地方整備局（港湾空港関係を除く）における総合評価方式の実施件数を図 - 1 に示す。平成18年度以降、実施件数及び適用率が大幅に増加しており、そのうちおよそ9割を新たに設けられた簡易型が占めている。一方、簡易型と同様にガイドラインにより新たに設けられた高度技術提案型は、技術的な工夫の余地が大きい工事において民間企業の優れた技術を活用することにより工事の価値の向上を目指すものであるが、発注者と競争参加者の技術対話を通じて技術提案の改善を行う手続や、技術提案をもとに予定価格を

*1 建設マネジメント技術研究室 029-864-4239

作成する手続を伴い、契約までに長期間を要することから活用があまり進んでいないのが実状である。

なお、国土交通省では19年度において、全発注工事のうち、件数で6割、金額で9割以上の工事に総合評価方式を適用することを目標としており、それを上回る件数が実施されている。

図-2に平成18年度上半期の簡易型及び標準型における落札者の内訳と加算点の設定状況を示す。いずれも約4割の案件において技術評価点で最高得点を獲得した者が落札している一方で、残りの半分以上の案件において技術評価点で最高得点以外の者が落札しており、そのほとんどが最低価格者



(a) 簡易型

(b) 標準型

図-2 落札者の内訳(18年度上半期)と加算点の設定状況

注) 主要4工種(一般土木、A S舗装、鋼橋上部、PC)を対象。以下の図も同様。

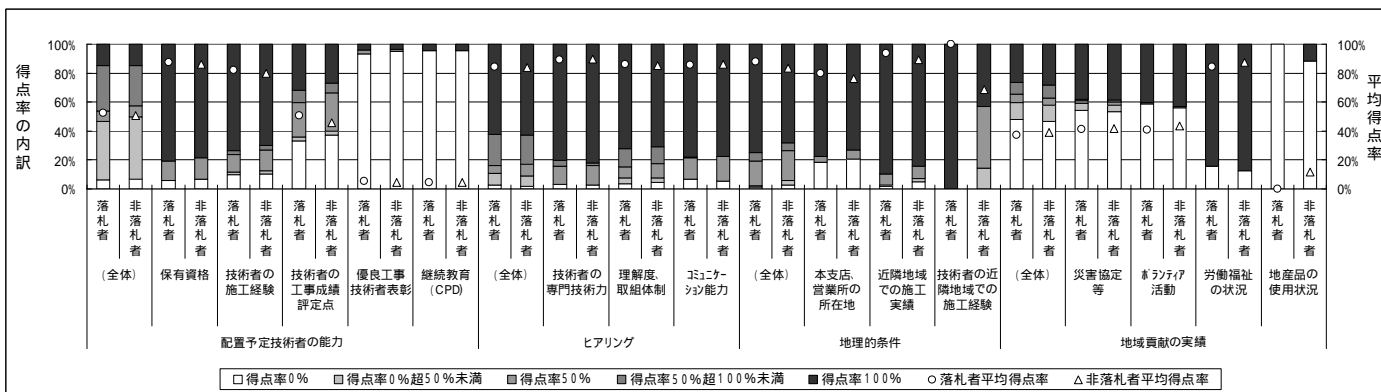
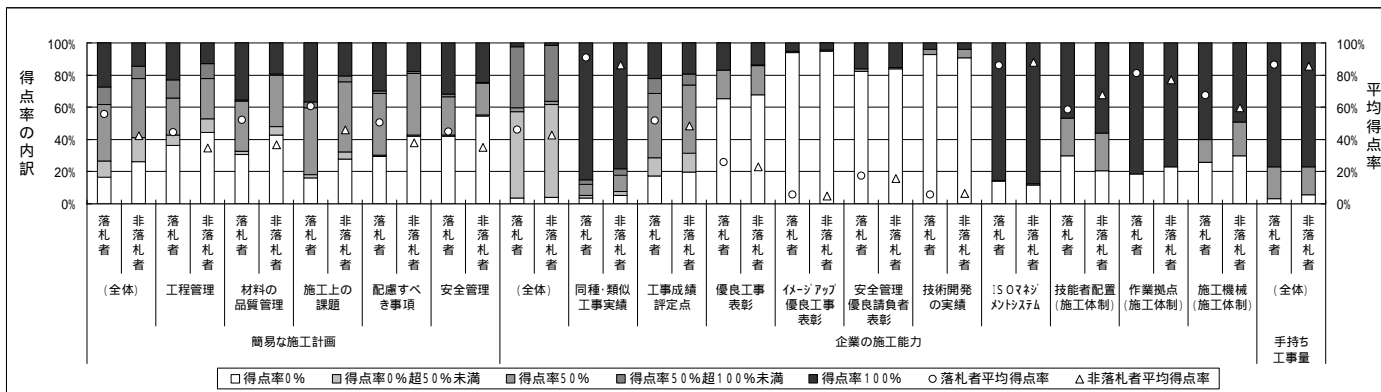


図-3 簡易型における各評価項目の得点分布(18年度上半期)

である。技術評価点により価格を逆転して落札した割合はいずれも全体の2割程度となっている。18年度から各地方整備局において加算点を拡大しているが、依然として価格の影響が大きいと考えられる。

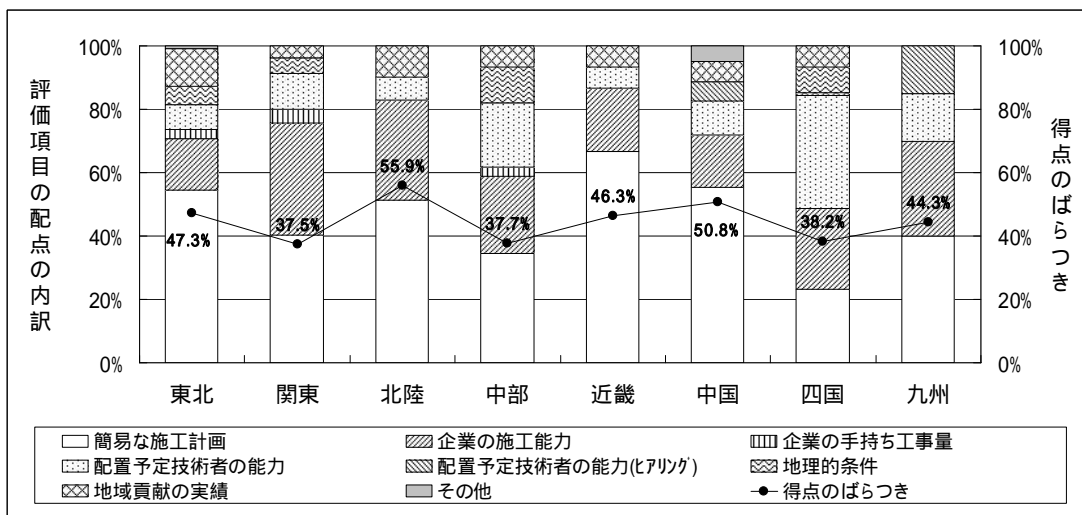


図 - 4 簡易型における評価項目の配点割合と得点のばらつき (18年度上半期)

3. 簡易型における評価項目

図 - 3 に簡易型における各評価項目の得点分布を落札者及び非落札者別に示す。図中のプロットは、それぞれの平均得点率を表す。簡易な施工計画は他の評価項目と比べて、落札者と非落札者の平均得点率の差が大きく、落札者決定に大きく寄与しているものと考えられる。

また、評価項目ごとの得点分布より、競争参加資格の要件として審査している企業の同種・類似工事の施工実績や配置予定技術者の保有資格等は8割以上の者が満点を得ており評価結果に有意な差が生じにくい一方、企業及び配置予定技術者の過去の工事成績は競争参加者間で得点がばらついており評価結果に差が生じやすい傾向が見られる。また、表彰実績の有無、

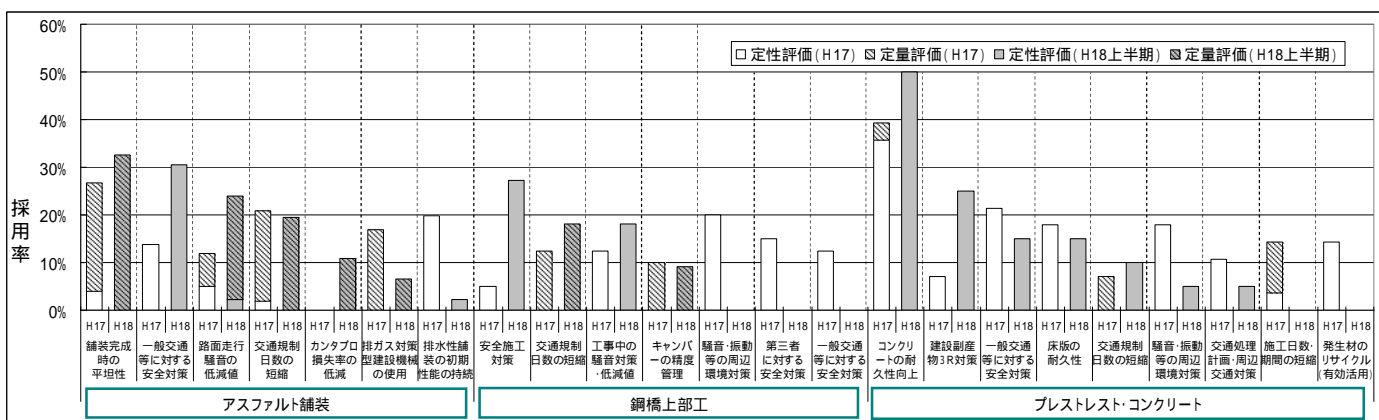
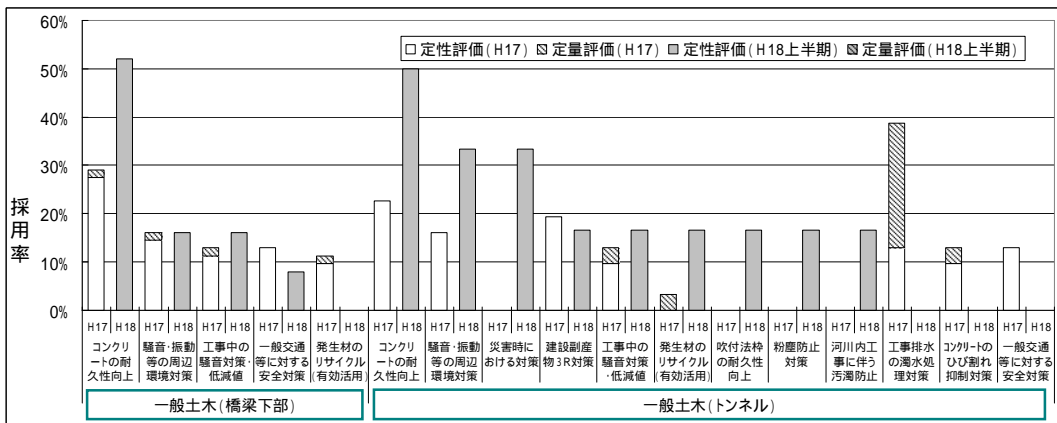


図 - 5 標準型における技術提案の課題設定

技術開発の実績の有無、継続教育（CPD）の取り組み状況等は、同種・類似工事の施工実績等とは逆に0点の者が大部分を占め、点数を得られた者は非常に優位になることが可能であるため、技術力競争を促進する上で有効な評価項目であると考えられる。

図 - 4 に各地方整備局における簡易型の評価項目の配点と応募者の得点のばらつきを示す。得点のばらつきは、技術評価点において最高得点者と最低得点者の差を満点で除した値の平均値である。整備局により評価項目、配点ともに相違があるが、簡易な施工計画の配点が大きいほど技術評価点に差がつきやすい傾向が見られており、このことから施工計画が技術力評価において有効であるといえる。なお、近畿地方整備局においては簡易な施工計画の評価が低得点に偏る傾向があるため、施工計画の配点の大きさに比して得点のばらつきが大きくなっていないと考えられる。

4 . 標準型における技術提案の課題設定

図 - 5 に標準型における技術提案の課題設定状況を示す。橋梁下部やトンネル等のコンクリート構造物においては、平成18年度は17年度に比べ、コンクリートの耐久性向上が大幅に増加しており、当該工事の特性を踏まえた本質的な課題設定に努めた結果と考えられる。その他には環境対策、安全対策、リサイ

クル対策等に関する課題について定性的に評価している事例が多い。また、アスファルト舗装では平坦性や騒音の低減、交通規制日数の短縮、鋼橋上部工では交通規制日数の短縮やキャンバーの精度管理等、定量的な評価を行っている事例も見られる。

一方で、課題設定及び評価方法がワンパターン化した場合、企業から提出される技術提案も形骸化することが懸念されるため、工事特性を踏まえた適切な課題設定のあり方や個々の現場条件に応じた適切な評価のあり方について引き続き検討する必要があると考えられる。

5 . おわりに

国土技術政策総合研究所においては、今後も総合評価方式の事例の分析を通じて、適宜必要な改善を図るとともに、総合評価方式の活用促進に努めていきたいと考えている。ガイドラインや総合評価の実施状況についてはホームページ (<http://www.nilim.go.jp/lab/peg/index.htm>) に掲載しているので参照されたい。

【参考文献】

- 1) 公共工事における総合評価方式活用検討委員会：
公共工事における総合評価方式活用ガイドライン、平成17年9月

Analysis of the Overall Evaluation Bidding Method with Technical Proposal in Public Works in Ministry of Land, Infrastructure and Transport

By Tatsuya TSUTSUMI, Hiroki MIZOGUCHI

Ministry of Land, Infrastructure and Transport is promoting further use of “Overall Evaluation Bidding Method with Technical Proposal” (OEBMTP), which is prescribed in “Act for Promoting Quality Assurance in Public Works”. The number of construction that applies OEBMTP increases greatly by introducing Simple Type after 2006 fiscal year.

The tender results were analyzed; therefore the following points became clear.

- The influence of the bid prices is still large for the reason of which the lowest bidder tends to make a successful bid though the additional points have been expanded.
- In Simple Type, it is effective so that simple schemes of the construction and past construction scores of the construction company or the engineer may evaluate technical ability of the participant.
- In Standard Type, it is necessary to examine the essential problem setting and the evaluation of technical proposals based on the nature of public work projects, continuously.